

第二東海自動車道横浜名古屋線遺跡範囲確認調査

かきした いわくらじんじやうらやま ながしのせんえぎしたらがはらけっせん
 柿下遺跡・石座神社裏山地区・長篠戦役設楽原決戦
 じょうあとぎとく すなが し のんば なかやまとりで
 場跡儀徳地区・須長10号墳・篠原遺跡・中山砦

所在地 新城市富永、大宮字狐塚、大宮字加原、須長、有海、乗本
 調査理由 第二東海自動車道横浜名古屋線
 調査期間 平成19年5月～6月
 調査面積 400㎡
 担当者 宮腰健司・岡久雅浩

調査の経過 調査は中日本高速道路株式会社豊川工事事務所による第二東海自動車道横浜名古屋線建設に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成19年5月から6月にかけて実施した。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を受け、柿下遺跡12カ所、石座神社裏山地区88カ所、長篠戦役設楽原決戦場跡儀徳地区12カ所、須長10号墳10カ所、篠原遺跡7カ所、中山砦8カ所のテストトレンチを設定した。

立地と環境 柿下遺跡は丘陵尾根斜面の平坦地、石座神社裏山地区は丘陵頂部から斜面、長篠戦役設楽原決戦場跡儀徳地区は丘陵尾根裾部の平坦地、須長10号墳は丘陵緩斜面、篠原遺跡は河岸段丘面、中山砦は丘陵尾根の稜線上と裾部の平坦地に立地する。

調査の概要 柿下遺跡では、上位の平坦地を中心に中世～近世陶磁器・土師皿の出土があり、9カ所のテストトレンチで溝状遺構・遺物包含層を確認した。また北側の平坦地で山茶碗・土師皿、西側の低地部で山茶碗、上位の平坦地で弥生時代中期の壺片を表採している。

石座神社裏山地区では、丘陵尾根頂部の西側平坦地の広い範囲で多数の古墳時代初頭～前期の壺・甕・高杯の出土があり、竪穴住居・土坑・遺物包含層を確認した。また西側の緩斜面地でも同様の遺物・遺物包含層が見られる。東側の平坦地では遺物・遺構は確認されなかったが、東部緩斜面地の2カ所のテストトレンチで須恵器片・土師器片が出土している。

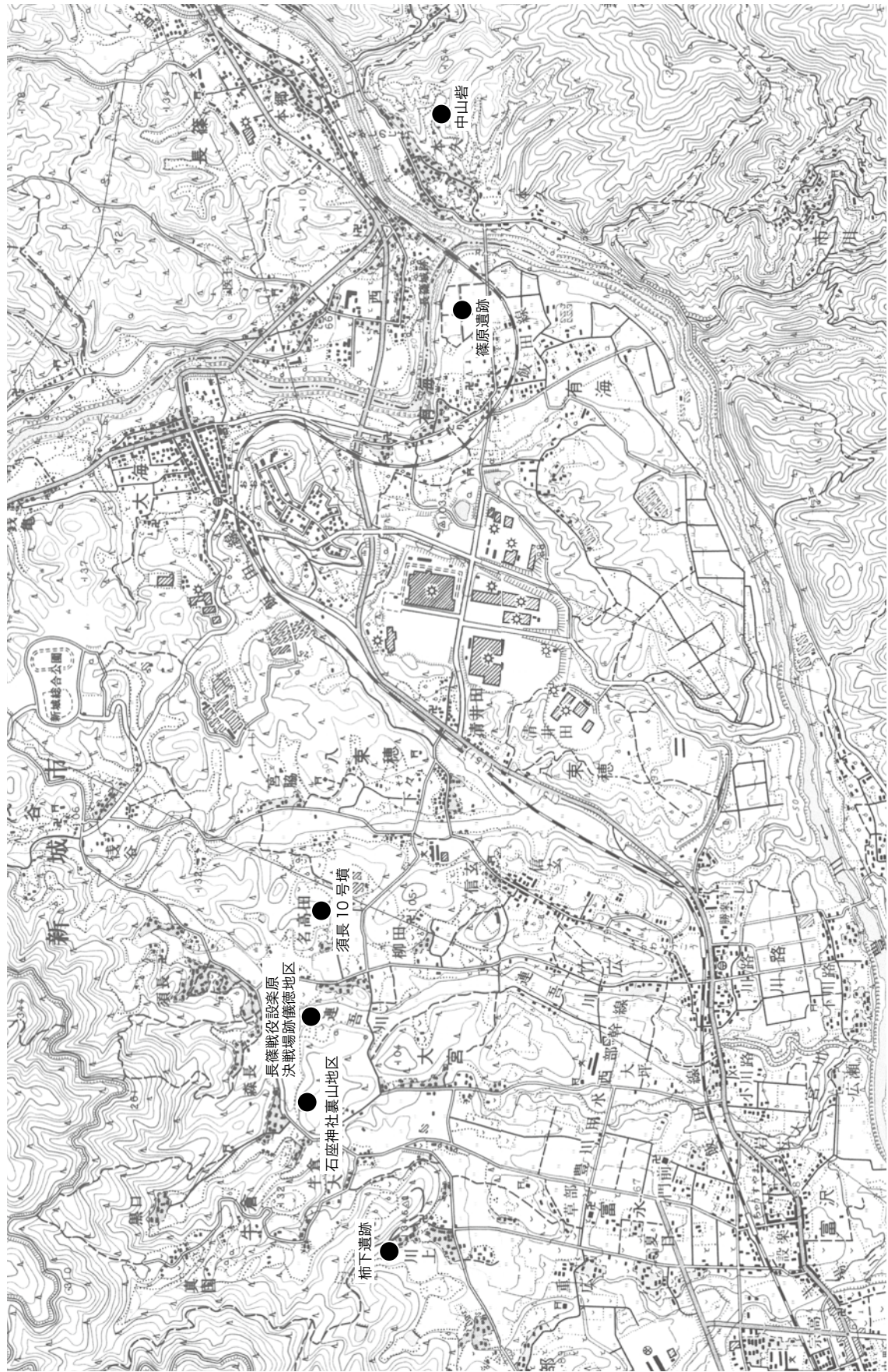
長篠戦役設楽原決戦場跡儀徳地区では、上段の平坦地で時期不明の溝・土坑・ピット列が検出された。さらに遺構検出面より下層の砂層内より須恵器・灰釉陶器・土師質土器が出土している。また東側の下段西部では1カ所のテストトレンチより時期不明の土坑状遺構は検出されている。またその下の河川堆積より縄文土器・弥生時代前期土器・須恵器・土師器が出土している。東部では近代と思われる造成の痕跡がみられた。

須長10号墳では、周知の古墳墳丘部裾部に3カ所のテストトレンチを設け、周溝と思われる溝・墳丘を確認した。遺物は近世陶磁器片のみが出土している。また周囲の高まりを中心に7カ所のテストトレンチを設定したが、遺構・遺物とも確認されなかった。

篠原遺跡では、近代と思われる溝以外に明確な遺構や遺物包含層は確認されなかった。

中山砦では、北側の丘陵裾部平坦地と頂部平坦地に3カ所のテストトレンチを設定したが、時期不明の土坑が1基検出されたのみで、明確な遺構・遺物とも確認されなかった。南側の丘陵尾根に沿って設定した5カ所のテストトレンチのうち、T.T.06では堀状遺構と土塁状遺構が検出された。遺物は出土していない。その他のテストトレンチでは遺構は確認されず、遺物も出土していない。

(宮腰健司)



調査地点(1/2.5万「三河大野」「三河富岡」)